

著者略歴

長瀬 修（ながせ・おさむ）

立命館大学衣笠総合研究機構教授（特別招聘研究教員）。障害学。著書に『障害者の権利条約と日本』（共編、2012年、生活書院）、"Creating a Society for All : Disability and Economy",（共編、2011年、Disability Press of University of Leeds）、『障害を問い直す』（共編、2011年、東洋経済新報社）など。

立岩真也（たていわ・しんや）

立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。社会学。著書に『相模原障害者殺傷事件——優生思想とヘイトクライム』（共著、青土社、2017年）、『精神病院体制の終わり——認知症の時代に』（青土社、2015年）、『自閉症連続体の時代』（みすず書房、2014年）、『造反有理——精神医療現代史』（青土社、2013年）など。

桐原尚之（きりはら・なおゆき）

立命館大学大学院先端総合学術研究科院生・日本学術振興会特別研究員（DC1）・全国「精神病」者集団運営委員。障害学。論文に「宇都宮病院事件から精神衛生法改正までの歴史の再検討——告発者及びその協力者の意図との関係」（『Core Ethics』第11号、2015年）、「解放という視座を有する社会運動が社会に与える影響——『精神病』者解放・赤堀闘争の分析を通じて」（『解放社会学研究』第28号、2015年）など。

伊東香純（いとう・かすみ）

立命館大学大学院先端総合学術研究科院生。障害学。論文に「ストレスモデルにおけるリカバリー概念の批判的検討」（『Core Ethics』第12号、2016年）。

渡辺克典（わたなべ・かつのり）

立命館大学衣笠総合研究機構准教授（特別招聘研究教員）。社会学。著書に『生存学の企て——障老病異と共に暮らす世界へ』（分担執筆、立命館大学生存学研究センター編、生活書院、2016年）、『大震災の生存学』（共編著、青弓社、2015年）、『触発するゴフマン——やりとりの秩序の社会学』（共編著、新曜社、2015年）、『愛知の障害者運動——実践者たちが語る』（分担執筆、障害学研究会中部部会編、現代書館、2015年）など。